

令和2年度第1回森林^{もり}の未来を考える懇談会 発言要旨

- 1 日 時 令和2年8月25日
- 2 場 所 杉妻会館4階牡丹
- 3 出席委員 5人
- 4 議 事

(1) 議題

ア 令和元年度森林環境基金事業の実績について

【事務局】

(資料1による説明)

【目黒委員】

ふくしまの低炭素社会づくり推進事業の木質バイオマス利用ストーブ普及支援とふくしまの未来を育む森と住まいのポイント事業における予算に対する申請数について教えてほしい。

【林業振興課長】

計画では、ストーブ100台を見込んでおり、申請が11月に上限に達したことから終了した。

【建築指導課主幹兼副課長】

計画では最大240棟を見込んでおり、12月に予算上限に達したことから終了した。

【沼田委員】

平成25年より実施されている、ふくしまの未来を育む森と住まいのポイント事業における子育て世帯への補助実績について、累計実績202棟に対し、令和元年度実績が117棟となっているが、令和元年度実績がこれほど多いのはなぜか。

【建築指導課主幹兼副課長】

子育て世帯への補助は平成30年度より始めた。

平成30年度は85棟、令和元年度は117棟で、併せて202棟の実績である。

【柴田委員】

エコ七夕事業について、もりの案内人が派遣されており、こういった評価をされているのか気になっていた。もりの案内人の会にて、報告したい。

【橋口委員】

森林整備地域活動支援交付金事業で計画を策定し、里山林を整備する場合に、里山林と奥山林との境界をどのように設定しているのか。

【森林計画主幹】

森林整備地域活動支援交付金事業は、森林経営計画作成において境界確定などに対して支援するもので里山林整備とは別である。地域森林計画作成時に野生鳥獣の被害の大きい区域についてはゾーニングを行っている。

イ 令和2年度森林環境基金事業の実施について

【事務局】

(資料2による説明)

【橋口委員】

森林環境税の認知度が低いこともあるので、ふくしま植樹際のチラシ等の紙媒体に森林環境税を活用していることを記載し、PRすべき。

【森林保全課長】

来年度以降、記載する。

【沼田座長】

ふくしま植樹際について、子どもの参加が少ないのが課題だと思う。

【目黒委員】

子ども里山教育支援事業とはどのような事業なのか。

【森林保全課長】

幼稚園（保育園）を2園選定し、学習会を実施して、成果について検討委員会を行い、事例を作成していく事業である。

【目黒委員】

子ども里山教育支援事業の、里山教育者の育成講師はどのような人を想定しているか。

【森林保全課長】

教授等を想定している。

【目黒委員】

森林環境教育支援調査発信事業でも森林環境教育を実施することであるが、対象は誰か。

【森林保全課長】

小中学生を対象とする。

【沼田座長】

森林保全課（子ども里山教育支援事業）と森林計画課（森林環境教育支援調査発信事業）で連携し、切れ目のない教育を目指すべき。

【唯木委員】

森林環境教育支援調査発信事業で作成する教育資材について、作成後は、小中学校に対し、発信してほしい。

【沼田座長】

森林環境教育支援調査発信事業について、今後の見通しを教えてください。

【森林計画課主幹】

令和2年度は調査・検討委員会・教育資材の方針作成を実施する。

令和3年度は教育資材を作成し、小中学校に配布する予定である。

ウ 令和3年度以降の森林環境税の在り方について－中間取りまとめ－

【事務局】

（資料3による説明）

【沼田座長】

税のネーミングについて、国と県で同じ名称ではわかりにくいのではないかと。一つのアイデアとして「ふくしま希望の森林づくり税」。

本文中の「新しい生活様式」とはなにか。コロナ禍後の生活様式を連想する。

【森林計画課】

税の名称については、必要があれば森林審議会の中で検討する。「新しい…」はコロナ禍後の生活様式も含む。

【橋口委員】

森林文化のくに・ふくしま県民憲章において様々な生き物に森が豊かであることが大切。市町村交付金での里山と奥山という視点から、生物の多様性といういろいろな生き物が共生できる森林づくりという視点を入れて欲しい。

ふくしま植樹祭は、浜通り→会津という順序で開催されている。次は中通りか。（植樹祭の体験イベントなどは）親子で参加しやすい柔らかい内容にして欲しい。

【森林保全課】

今年は、ソーシャルディスタンスを確保した開催内容となっている。来年度は検討する。

【農林水産部次長】

平成30年度は南相馬市、令和元年度はふくしま県民の森フォレストパークあだたら、今年度は会津と、県内三地方で開催している。

【沼田座長】

植樹祭は柔らかいイベントで間口を広げる方向で。

【目黒委員】

森林環境教育支援調査発信事業で、「冊子」の配布とあったが、デジタルデータ（コンテンツ）を製作して学校で活用すれば良いのではないか。

【森林計画課】

（ネットワーク等の）環境を整えばデジタルデータを活用していきたい。

【沼田座長】

単にPDFデータを配信するというだけではなく、人が説明しているようなコンテンツにしたほうが良い。

「森林環境の調査研究」が「県民参画の推進」に入っているが、無くなったように見える。「調査」も重要ではないか。

【森林計画課】

調査がなくなったのではない。調査が目的ではなく、調査の結果を活用して発信し、県民参画に繋げるということが目的なので統合した。